

青森県立青森南高等学校

青森南高校縄文

高校生ボランティア・アワード2023

縄文から学ぶ世界平和

活動概要

- ①青森市にある小牧野遺跡の方と協力して北海道・北東北の世界遺産を広め、縄文に対する理解を深める。
→イベントでのPR活動、体験活動での指導
- ②土器や木の美などの身近なものを通して縄文に興味を持ってもらう。
→粘土を使って土器を作る、木の実を使ってリースを作る
- ③縄文を通して地域の方々、小中学生と交流する。
→イベントで小学生の縄文新聞作成の手伝い
- ④縄文時代の魅力を留学生や観光客に英語で伝えていく
→地元を紹介する際に英語で縄文時代の平和についてPRする
- ⑤縄文を通して青森の経済発展を促す
→青森にある遺跡群への観光客数の増加、縄文グッズの企画・作成・販売・宣伝
- ⑥自分たちで作った土器を使って7月30日にあるイベントで縄文鍋を振る舞う
→土器で塩を作り野菜、肉の入った縄文鍋を作る
- ⑦青森県内にある三内丸山遺跡、小牧野遺跡、亀ヶ岡遺跡、大平山遺跡、大森勝山遺跡、砂沢遺跡、餅ノ沢遺跡、垂柳遺跡、八幡崎遺跡、十腰内遺跡、小館期遺跡の魅力を満遍なく有名にしていこう
→それぞれ規模に差はあるもののどの遺跡も魅力的なので三内丸山遺跡以外の遺跡もPRしていく
- ⑧地元の世界遺産があることを生かし地元で根付いた活動をする
→市議会議員や青森市役所などとの連携による地域活性化のPR
- ⑨自分たちでできる縄文時代の平和を通して地域をよりよくする
→縄文時代の平和を参考に今日本でも問題になっているいじめ問題にも目を向けいじめ防止運動等にも参加する
- ⑩総合的な探求の時間に学んだSDGsと世界遺産の関連性を幅広い世代に向けて公開授業を行う
→公民館や市民センター等で自分たちの生活に生かせるような平和についての講演を行う
- ⑪地域だけでなく世界の平和についても探究する
→授業で学んだ過去の紛争・戦争・迫害などをまとめ今現在起きている紛争・侵襲問題につなげ自分たちの得意な英語を用いて拡散する
- ⑫ロシア語で世界に平和の必要性を訴える
→学校で学んでいるロシア語を用いて平和の大切さについて様々な人と交流する
- ⑬自分たちの生活をよりよくしていく
→この活動を通して自分たちの知識の幅を広げ生活の質を高める

*Мы реализуем мир через эту деятельность.
~Чтобы облегчить жизнь всем~*



「縄文」

一年生のころから総合的な探求の時間に縄文時代の平和、生活について探究活動をしており、担任が歴史、特に縄文が好きでその影響により、二年次でも縄文について学ぶことになり、今度は校内の枠だけに収まるのではなく、青森市の小中学生にも縄文のすばらしさ、そして平和、理解をもっと深めることを目的としてこれらの活動をしています。

一年生のころの活動では主に実際に遺跡を見学しに行き、専門家の方に話を聞いて知識の幅を広げていき、その聞いたことをもとにして新聞づくりをしました。そしてそれを青森市議会議員の方にプレゼンテーションをしました。このプレゼンを機にさらに活動をしていきたいと思い、より一層この活動を本気で取り組んでみたいとメンバー全員が考え今年度の活動について計画するようになりました。

これから私たちは縄文だけではなく青森県の魅力のことも全国にそして世界へ広げていくという高い志を持って活動していきたいと思います。また、高校を卒業してからも各々の進路で世界をよくするために活動していきたいと思っています。

*we are proud of this activity
~Because it takes courage to act~*

「活動目標」

青森から全国へ、日本から世界へ～縄文と人と平和をつなぐ～

活動の詳細

・実施内容

実際に遺跡に赴き知識を身に付け、その知識をもとに自分たちで考えまとめて新聞を作り校内の生徒や先生方、青森市議会議員の方に見てもらい内容を何回も校正し、より伝わりやすいポスターを作成することに力を入れた。

今年度は縄文時代の人が実際に行っていた土器作りを体験し見ているだけではわからない体験しないとわからなかったことに気づき、その体験をもとに今度は自分たちがインストラクターとなり小中学生に地域の方に教えていく。

またその作った土器を用いて海水から塩を作って、縄文鍋を作る。留学生に縄文の良さについてのPR活動を行う。

私たちは活動実施内容を8つに分けて考えた。

☆環境

→世界遺産に登録されている縄文遺跡群を後世に残していくために周りの環境やポイ捨てなどの問題を解決するためにクリーン作戦への参加

☆経済

→青森県は新型コロナウイルスの影響により経済状況が悪化しているため縄文を日本や世界の人に知ってもらい青森県を訪れる観光客の増加を促し、経済状況を一転していく

☆平和

→今世界各地で争いが起きているのが現状だ。縄文時代には人を傷つける道具がなかったということを広めより一層平和についての理解の輪を広げていく

☆国際

→最近新型コロナウイルスが5類に引き下げられ国際交流をする場が少しずつ増えてきている。その機会を生かし外国人に縄文の魅力伝えていく。

☆兼愛

→誰かを特別愛するのではなく縄文時代の住人が協力して生活していたようにすべての人を愛し助け合い生活していくことを目指す。

☆公平

→現在男女やジェンダーについて国際的に差別が問題になっているが縄文時代は身分差がなかった。これからの世界が公平で差別に苦しまないように縄文のことを広める。

☆交流

→普段生活していると自分たちと違う年代の人と交流する機会はなかなかない。この活動を通して幅広い世代の方と交流し、人生を豊かにしていく。

☆多様性

→今は型にはめられ個性がなかなか認められないこともあるかと思う。しかし、縄文時代はそれぞれのアイデンティティが認められ仲良く暮らしていたということを現代にも生かしていく。



「Bring Jomon to the world」

これらを通して縄文時代には戦争をした形跡がなく、今現在各国で起こっている様々な世界問題を少しでも私たちが縄文を通じてよくなってほしいと思います。今起こっている世界問題を例に出すとロシアによるウクライナ侵攻や北朝鮮のミサイル発射問題、各国の経済格差、地球温暖化などです。

私たちは青森南高校の外国語科に在籍中です。そこで、ロシア語を勉強しています。そのため、ウクライナ侵攻を身近に感じています。また、北朝鮮のミサイル攻撃もニュースなどで取り上げられており、外国語科の特色である多国籍の方との交流が盛んであるという利点を生かし世界問題についての意見を議論し考えの輪を広げていきたいです。

そして今最も世界問題として重要視されている地球温暖化問題については一年生のころから縄文とSDGsとの関連性を見つけ出し、各々の考えを共有しあい議論を重ねてきました。

このようにして、ただ単に平和を主張するのではなく、縄文のような過去の時代の素晴らしい歴史とともに世界に向けて平和と縄文を主張していきたいです。

今は、このように国内だけにとどまっていますが、よくよくは国外にむけての活動も視野に入れています。具体的には、外国人観光客の方に向けた縄文と世界の為にできることを共有する活動をしたりなどです。これらの活動でこの世界がよりよくなることを願ってこの活動に取り組んでいきます。



活動団体プロフィール

- ・青森県立青森南高等学校外国語科在籍
- ・メンバーは主に4人で活動中
→田中（沖館中）、花田（甲田中）、福田（三内中）、有馬（五一中）
- ・幼い頃から縄文遺跡に触れ親しみ身近に感じてきた
- ・活動歴1年
- ・1年次の総合的な探求の時間をきっかけに縄文の平和について学びたいと思いこの活動を始める
- ・担任が世界遺産マイスターということもあり入学当初から世界遺産検定やSDGsなどに興味を持つ